

1ドル=150円 「日本は貧しい」の嘘

円安の元凶＝日本の競争力低下に反論、あなたが今やるべきこと
2022/10/21

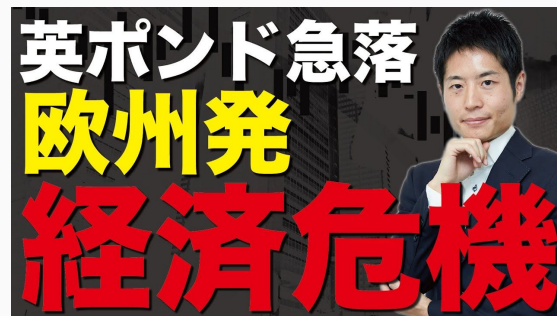
1ドル=150円を突破

2022/10/21 00:00 **Open:** 150.050 **High:** 150.221 **Low:** 150.010 **Close:** 150.160



円安(ドル高)は一時的

- 円安ではなく「**ドル高**」
- **リスク回避** のドル買い
- 購買力平価では長期的に **円高方向**



円安が定着するとしたら「国力低下」？



日本は長いこと経済の低成長が続いていて、その間、諸外国では物価と賃金が上がり、ある程度の成長を実現してきたが、日本はデフレで賃金も上がらず、その結果として日本の労働者のスキルも落ちてしまっていた。

成長の格差によってあらゆる面で「安い国」になってしまったことが、いまになって円安という結果につながっている。

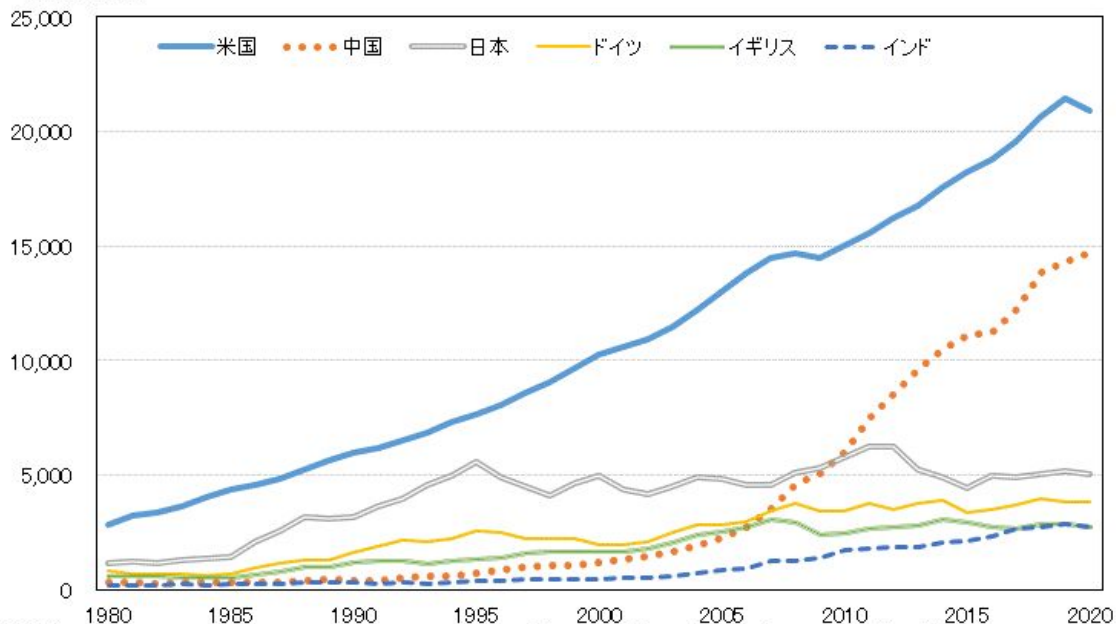
「日本安い」と歓喜する外国人



GDPは日本だけが伸び悩む

図：名目GDP（為替レート（米ドル換算））の上位6か国（米国・中国・日本・ドイツ・イギリス・インド）の推移

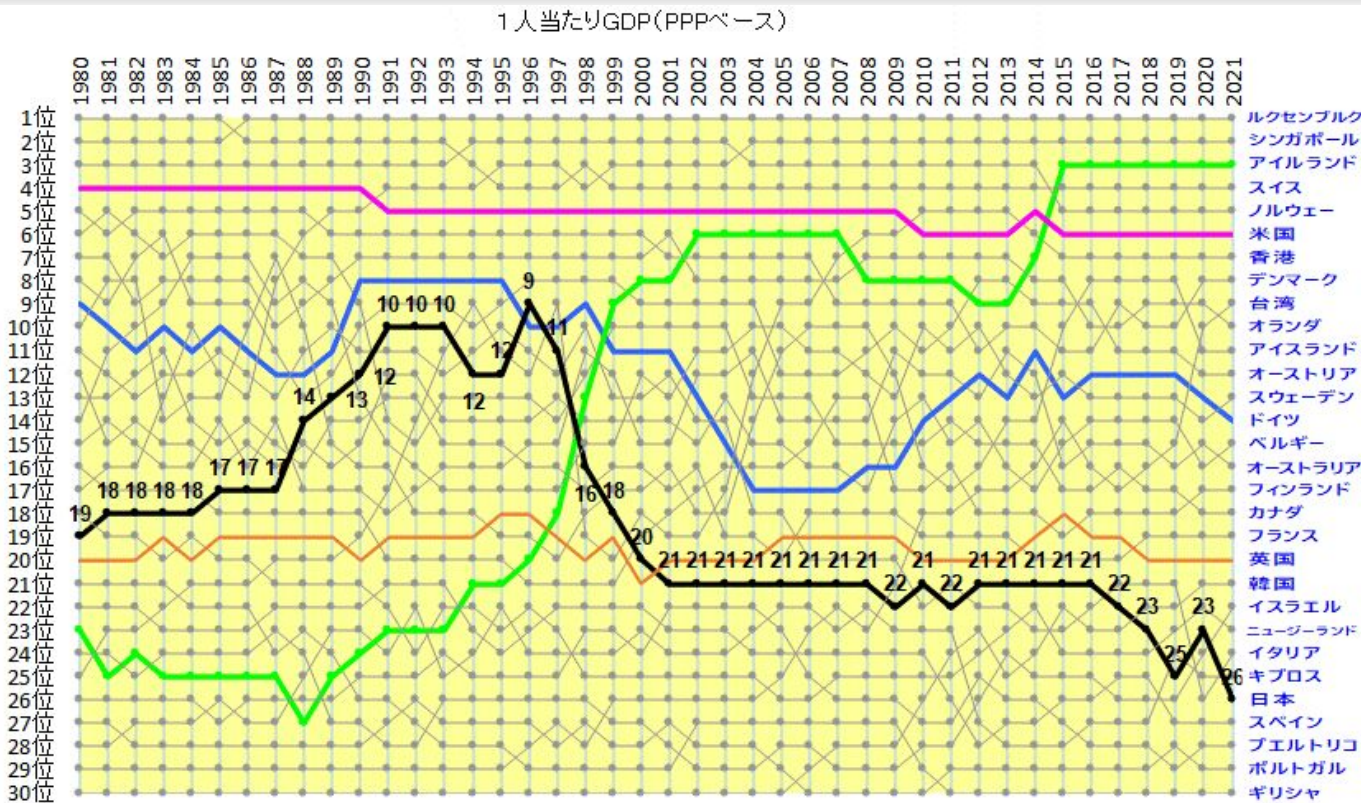
（10億米ドル）



（出所）IMF “World Economic Outlook Database, April 2021”（2021年4月12日閲覧）よりニッセイ基礎研究所作成

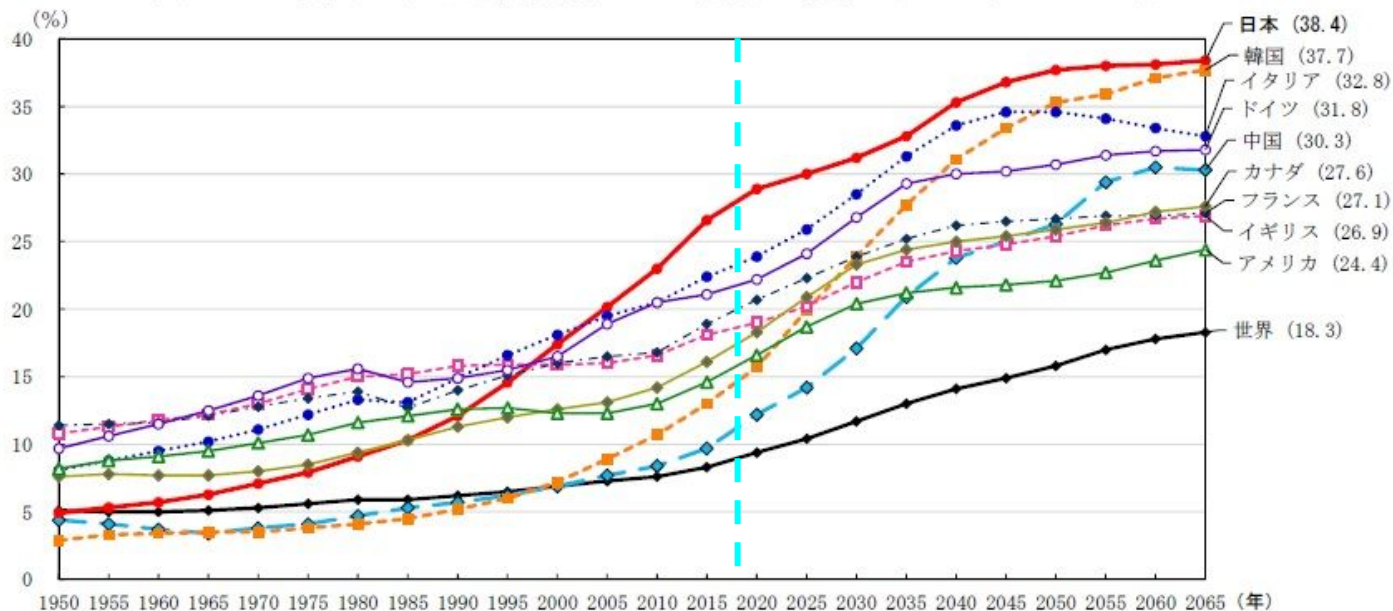
（年）

一人当たりGDP



高齢人口推移

図 21 主要国における高齢者人口の割合の推移（1950年～2065年）

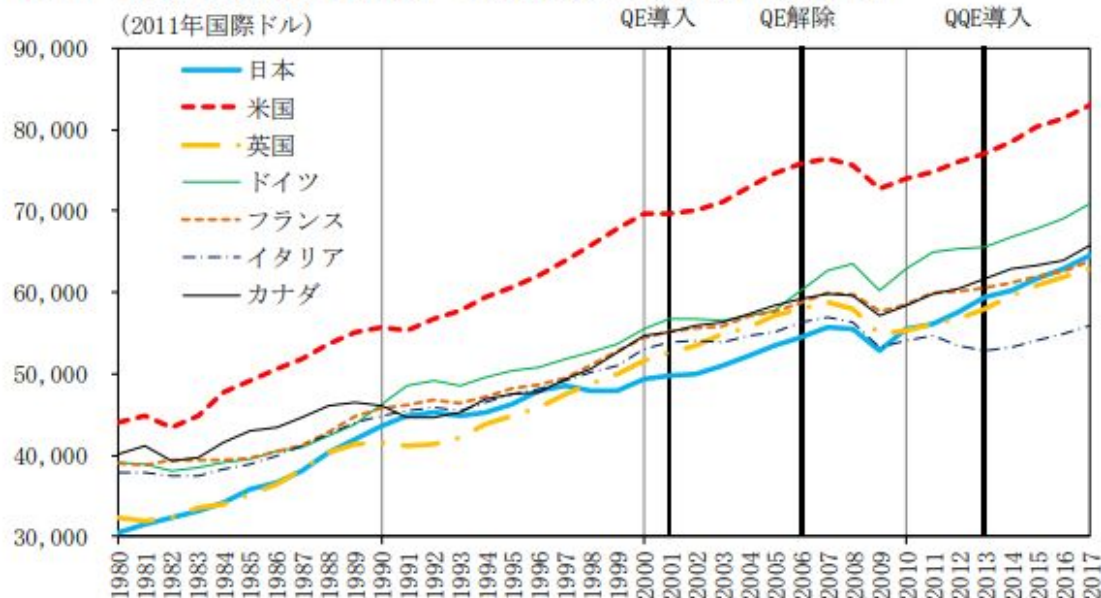


資料：日本の値は、2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」
他国は、World Population Prospects: The 2017 Revision (United Nations)

注) 日本は、各年10月1日現在、他国は、各年7月1日現在

生産年齢人口あたりGDP

図2 主要国の生産年齢人口一人あたり実質購買力平価GDP



(注) 生産年齢人口は、5年毎のデータを線形補間した。ドイツのデータは、1990年以前は西ドイツ、91年以降は統一ドイツ。実質GDPは購買力平価換算（2011年国際ドル）。

(出所) IMF「World Economic Outlook Database」、United Nations Population Division「World Population Prospects: 2017 Revision」

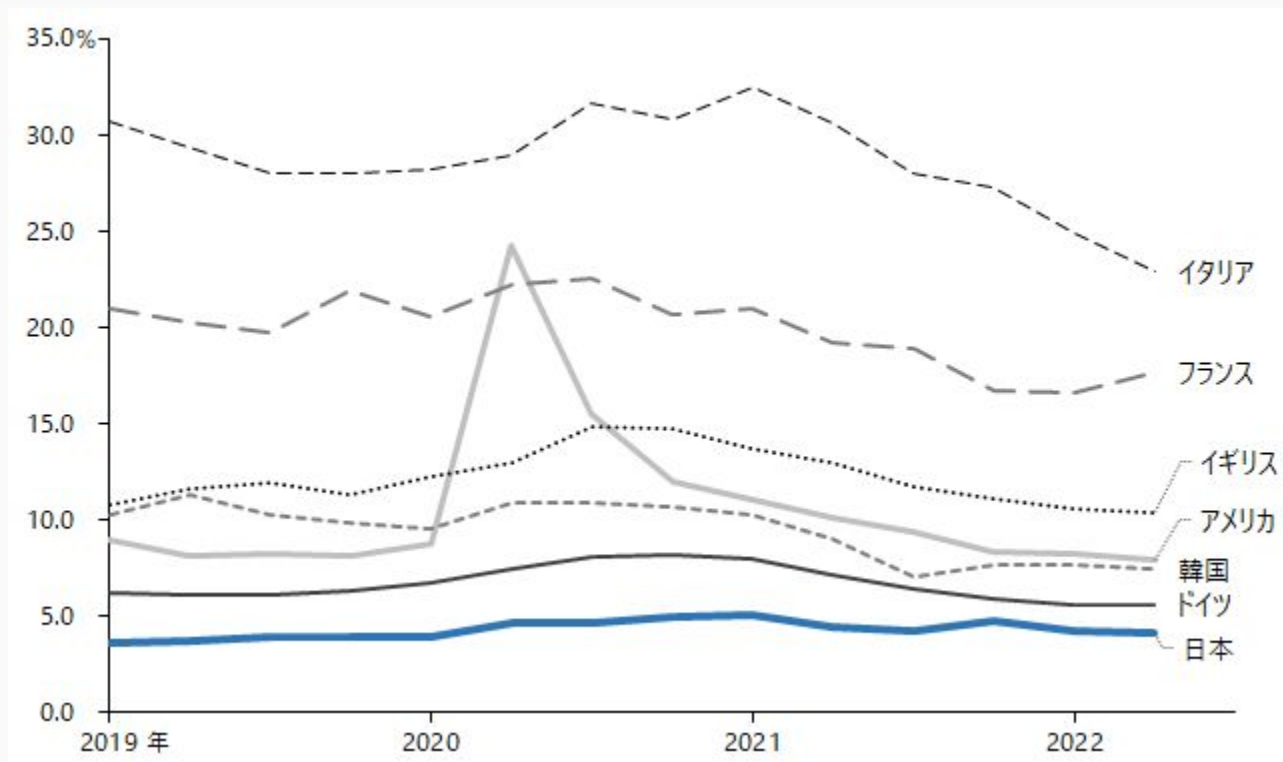
一旦まとめ

- 1人あたりGDPで見ると順位が下がっているが、**高齢化**によるところが大きい
- 生産年齢人口あたりGDPでは**英・仏・加と遜色ない**
- 時価総額等の序列は下がっているが、かつてのバブルで上がりすぎた反動や、GAFAMのような飛び抜けた企業がないだけで、**国全体としての生産性は向上**

日本が「安い」理由

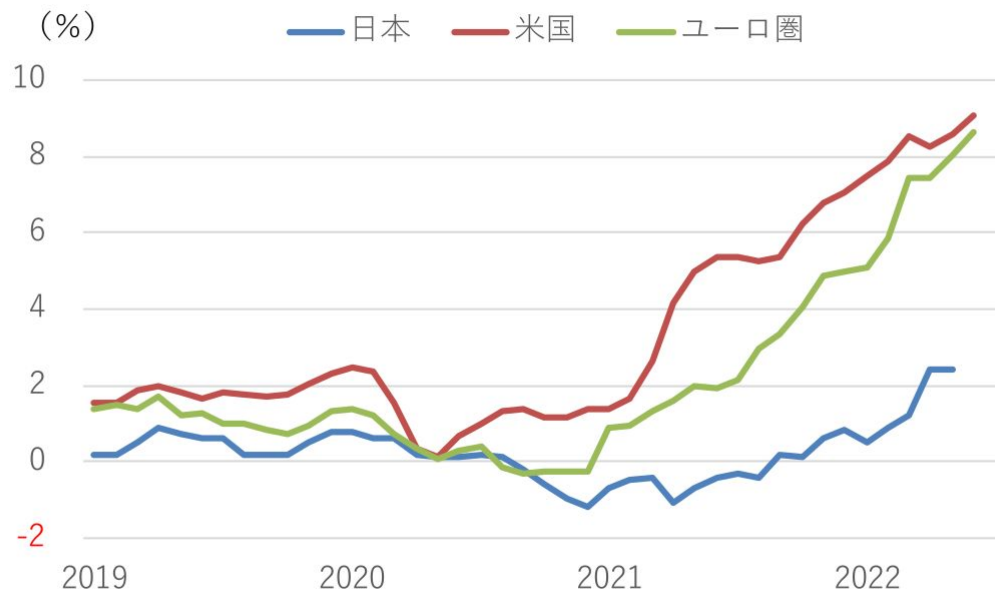
- 米ドルを使う人は **ドル高** の恩恵(一時的)
- 日本の消費者は **価格に厳しく**、値上げし辛い
 - 高齢者が多い
 - 自国内での競争が激しい
 - 経済格差が小さい
- 結果、海外より **インフレが進んでいない**

若年層失業率(15~24歳)



各国インフレ率

(図表1) 日米欧の消費者物価の推移



出所：総務省、米労働省、欧州統計局資料より第一生命経済研究所が作成

「安い日本」メリットとデメリット

● メリット

- 高品質・低価格
- インバウンド需要活性化
- 弱者が切り捨てられにくい

● デメリット

- 賃金が上がりづらい
- 飛び抜けても報われない
- 安定＝固定的

あなたがやるべきこと

- **高品質・低価格** を享受する
- より **給料の高い仕事** を見つける
- 「日本品質」を **海外展開** する企業に投資する